

天文学とプラネタリウム

第33回



今月のお題

サイエンスグッズ・ワークショップ



■土星飴、完成!

かわいい宇宙グッズ、
もっともっと街中で目にしたいと思いませんか?



www.tenpla.net

高梨直紘 (東大D2/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D2/国立天文台ALMA推進室所属)

町の雑貨屋さんで見かけるかわいいグッズたち。そんなグッズの中に、科学的な要素をもっと積極的に取り込んで、楽しい科学雑貨が作れないものか。そんなことをみんなで考えるワークショップを、昨年11月26日に東京お台場の日本科学未来館で主催してきました。今回は天文学だけではなく科学一般ということで、国立科学博物館の科学コミュニケーター養成講座、略して科博SCの受講生の皆さんと一緒に開催しました。今回のコラムでは、その様子を紹介したいと思います。

サイエンスグッズを考える

参加は事前登録制で、当日に集まった参加者は約25人。立ち見での見学者も来るなど、なかなかの盛況でした。まず事務局から科学グッズについての短い講演を行った後に、テーマ毎にグループに分かれてのアイデア出しを行いました。今回のワークショップで作られたのは、生物(2グループ)、宇宙(2グループ)、物理、地学の計6グループ。各グループには、例えば「大

人向け」「専門的」「10000円以上」といった課題が設定され、その条件の下でどのようなグッズが考えられるのか、議論を行っていただきました。最初は無事に議論が進むかな?と心配していたのですが、案ずるより産むが易し。あつーい議論がそこかしこで繰り広げられました。各グループ、それぞれ面白いアイデアが出されたのですが、以下では宇宙系のグループが提案したアイデアについて紹介しましょう。

まずひとつめは「ダークマターケーキ」。この宇宙に満ちるエネルギーは、4%が私たちの目にする通常の物質、25%は正体不明だけど質量を持つダークマター、そして残りの71%が斥力を持つこと以外はずっと正体不明のダークエネルギーで占められています。この円グラフをそのままケーキにしてしまったものがこのダークマターケーキです。ケーキの箱をあけると、そこにはわずか29%分のケーキしかない…このやるせなさから宇宙の秘密に迫ってくれば、という願いがこもっています(本当か?)。

そしてもうひとつが「みそーらーカップ」。太陽の表面には粒状斑という太陽内部の対流によって出来る斑点状の構造が認められますが、



北海道大学CoSTEPでの講演と、レストランみんなたるでのサイエンスカフェのために北海道へ。道行く人はなんの撮影だと思ったことでしょう…

実はこの粒状斑が出来る仕組みは身近なところでも目にすることが出来ます。そのひとつがお味噌汁。お味噌汁の中で対流が起きている様子を観察しやすいように特別に作ったガラス鍋がみそーらーカップです。お鍋本体は太陽を模してまん丸な形、その蓋には太陽系の惑星たちが彫り込まれていたり、とつての部分はプロミネンスになっていて、お味噌汁を作りながら台所へ太陽へとトリップできる優れものです。この記事を読んでひらめいてしまった方はぜひ天プラのウェブサイトへ。一緒にいろいろとグッズのアイデアを練ってみませんか?